

編集 報道委員会委員長 瀧元 智恵	第 205 号 2025 年 9 月	JAUW SAPPORO	発行 (一社)大学女性協会 札幌支部 支部長 朝日 幸世
-------------------------	--------------------------	---------------------	---------------------------------------

2025 年度 大学女性協会札幌支部 定時総会

2025 年 4 月 16 日札幌エルプラザにて 2024 年度札幌支部総会が開催されました。対面参加会員 7 名、メールでの議案書承認会員 6 名となりました。

2024 年度の札幌支部の活動は、

第 1 回例会 『子どもたちのセーフティネットをオンラインと繁華街で作る挑戦』 今井紀明氏

第 2 回例会 『チェコでの暮らし～23 年の学び（生活、仕事、子育て）』 コトラ亜希子氏

第 3 回例会 『開拓期の女学生』 豊平館歴史連続講座

第 4 回例会 『移住が身近な時代に女性として思うこと～ニュージーランドでの体験から第二弾～』
村田佳奈子氏

と、実り多い例会を 4 回も開くことができ大いに盛り上がりました。2024 年度の活動報告は会員がみな満足しており、喜びの声が多々聞こえました。

2025 年度の活動案もアイデアが次々出てきました。今年も達成感のある一年となりそうな気配を感じられる総会となりました。（瀧元記）

令和 7 年度新役員

支部長 朝日幸世

副支部長 瀧元智恵 野寄由利

書記 押谷君予 川岸雅子

会計 川岸 雅子（押谷君予・野寄由利）

監事 加藤好江 出口好子

選考委員 関川正美 吉田素子

ZOOM 担当 瀧元智恵

研修・文化委員長 押谷君予

国際委員長 堀内満智子

報道委員長 瀧元智恵



【自然・歴史・文化を訪ねる会】 幻の『創成川公園散策』とランチ

7 月 23 日に『創成川公園散策』が開催されるはずでしたが、熱中症警報発令。暑さを懸念しての前日キャンセルとなりました。ボランティアガイドの方も手配して下さっていたのに残念でした。また、お花の時期にでもリベンジですね。

ランチ場所として予約されていたレストラン「Agora Sapporo」の HP をながめては美味しそうな料理に期待で胸を躍らせていた私は、リベンジ会まで我慢できずにこっそり食事してきましたよ。本当に美味しい海鮮イタリアンのお店でした！企画していただいた押谷さん、本当にありがとうございました。リベンジ会を楽しみにしています。

（瀧元記）

第 1 回【自然・歴史・文化を訪ねる会】 『そらぶちキッズキャンプを訪ねる会』

10 月 5 日（日）

9:00 札幌駅発 カムイ 7 号

9:52 滝川着

10:40 キッズキャンプ着

14:30 キッズキャンプ発

15:32 滝川発 カムイ 28 号

16:25 札幌駅着

滝川市丸加高原にある、難病と闘う子どもたちに夢のキャンプ体験を支援する「そらぶちキッズキャンプ」を訪問します。当日は小児科医・作家として著名な細谷亮太先生が訪問されています。

申し込みは、押谷会員 k_oshitani24@outlook.jp

北海道庁 水産企画係を訪ねて

押谷君予

皆さまご存じの通り、10月18日、19日に行われる大学女性協会全国セミナーでは「ウェルビーイングと環境 ～くらしの視点から～」というタイトルのもと、札幌支部では北海道の水産資源について瀧元智恵会員が札幌支部代表として報告されることになりました。これまで一般消費者や漁業関係者へのアンケートを行ってまいりましたが、7月30日に北海道庁に北海道水産林務部総務課水産企画係を訪ねました。

大学女性協会からは瀧元、押谷。林務部からは若山賢一水産企画係長、佐藤住志主任がご対応くださいました。

私どもからは予め用意した質問をし、先方から回答や説明を受けるという形でしたが、問題は山積しており、あっという間に予定の1時間が経過してしまいました。質問は以下のようなものが中心となりました。

- ・行政で抱えている重要課題
- ・国際情勢
- ・漁業従事者の現状
- ・温暖化による変化。
- ・環境保全(うに殻など漁業廃棄物の扱いなど)

これに対し、道庁からは具体的な施策、今後の見通しなど詳しい説明がなされました。

今まで取れていたものが取れず、取れなかったものが取れるようになってきているなど、海洋環境はこれまでの理解や常識が通用しない大きな変化を遂げている。予期しえない変化に中長期・単年度の両方の施策を行っているが対応が追いついていない現状にある。

通常、一次産業においては「課題」があつて施策が行われてきたが、目前の膨大な課題に未来を見据えることができない。

また、国際情勢の変化も末端の漁業従事者に直に影響してきている。例えば ALPS 処理水(福島原子力発電所から放出される処理水)をめぐり、中国政府が日本からホタテの輸入を禁止した。その代替措置としてアメリカへの販路を開いてきたが、今度はトランプ関税により、アメリカへのホタテ輸出が頭打ちになるなど大きな影響が起きている。国際競争力をもつ海産物をどう育てていくかという課題もある。

漁業者は通常の操業で食べていきたいと思っているが、海の変化でそれが出来ない。取れる魚種が変われば船の大きさや性能も変えなければならないし、昆布などが育つ藻場の整備は漁業者が保全するものとされており、各漁協では研究機関や企業と組んで様々な対策を行っているが、まだ始まったばかりである。

さらに一次産業では人手不足が他の産業に増して著しい。そのため道では人材育成や保証金制度、新規就業希望者参入のためのSNS発信やフェアを行い、人材を求めている地域とのマッチングや道立漁業研修所を作り、新規参入者や若い漁家子弟の訓練を行なっているほか、女性活用として浜の女性部活動支援などの手厚い保護政策を行っている。

環境保全については、漁船や漁網などは塩分を含み、一口にプラゴミというくりが出来ない難しさがある。また、かつてウニは実をとった後の殻は海に投機を行っても良かったが、現在では海洋汚染の観点からそれらは禁止されているうえ、新たに処分費用の発生にもなっている。

このようにお話を伺うほどに様々な施策は行われているにも関わらず、漁業環境の大きな変化に対する解決の見通しの遠さ、現状の厳しさを知るばかりの結果となりました。

そういった中でも今後の明るい情報として、漁業のスマート化のお話がありました。船の操舵の自動化、水中ドローンの活用(どのような魚がどこにいるかを他の漁船と共有し、漁場の情報提供など)、鮭の定置網にカメラの設置(今漁網に入っている魚種の情報共有)、昆布乾燥等、浜の作業の機械化、AIの活用などが挙げられました。漁業は農業に比べるとスマート化が進んでこなかった分、可能性が大いにあるということです。

最後に私たち消費者に求めることとしては「魚を食べることが何よりの応援」ということでした。道でも魚料理のレシピ発信を飲食店やスーパーを使って行っているということでしたが、一消費者の実感としては、そういったレシピをよく目にするという状況にはないように思いますがいかがでしょうか。

先日のテレビニュースで、今年のサンマは十数年ぶりの大型サンマが上がっているものの、これも今だけで次にやってくるサンマの魚群は次第に小ぶりなものになっていくということでしたので、早速買い求め、久しぶりに脂ののった大きなサンマを塩焼きで堪能いたしました。

せっかく四方を海に囲まれた北海道に住む者として、魚を美味しく食生活に取り入れ、微力ながら漁業者への応援につなげていければという思いを新たにした訪問となりました。



手前が旧北海道庁、後ろの建物が現北海道庁

2025年度 一般社団法人 大学女性協会 全国セミナー

申込み期間 8/26～10/15

ウェルビーイングと環境～くらしの視点から～

詳細は大学女性協会 HP に掲載

10月18日(土)

13:00 開会

13:10 基調講演 『気候変動訴訟と将来世代法～末永くみんなの幸せを守るには?～』 京都支部 一原雅子

14:10 休憩

- 14:20 支部報告①②③④
- ①『山火事 豪雨 世界の状況』 岡山支部 木口京子
 - ②『絶滅の危機は何を意味するか』 仙台支部 長谷和子
 - ③『コメ 産地からの視点』 新潟支部 大淵智絵
 - ④『北海道の水産業の課題』 札幌支部 瀧元智恵
- 15:45 休憩
- 16:00 支部報告⑤⑥
- ⑤『天ぷら油で飛行機を飛ばそう』 東京支部 遠藤理枝
 - ⑥『課題を克服して明るい未来を』 長崎支部 梅田和子

17:00 閉会

10月19日(日)

9:20 開会

9:25 特別講演 『エコフェミニズム～環境をジェンダー視点から捉える』

10:25 休憩

国立女性教育会館理事長 荻原なつ子

10:40 ディスカッション

12:00 閉会

【水産資源についての消費者アンケート結果】 JAUW 札幌支部 2025 年

調査の実施時期	2025年6月29日～8月6日
調査対象	北海道民(札幌支部会員とその友人・知人ほか)、元道民
調査方法	Google Forms またはアンケート用紙による回答

1. 回答者の属性

(1) 性別と年代

(単位:人)

	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
女性	4	4	8	13	16	14	59
男性	0	7	2	4	5	2	20
計	4	11	10	17	21	16	79

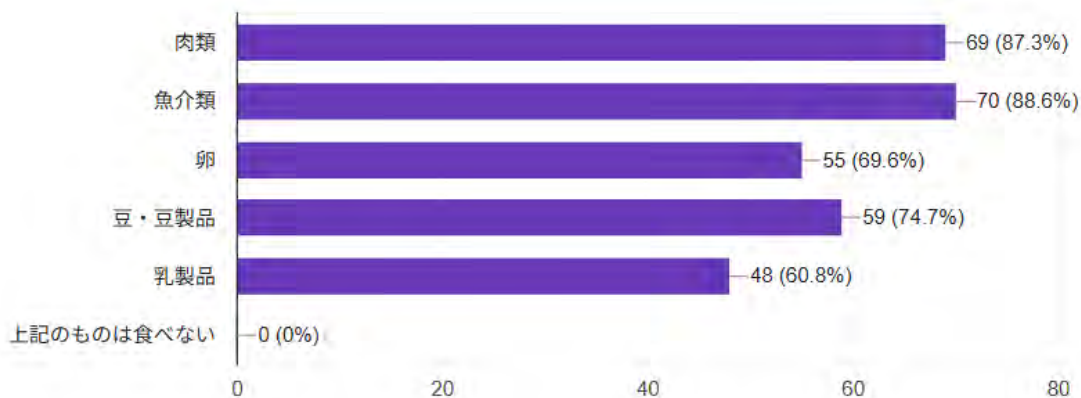
(2) 居住地域と年代

(単位:人)

	道北	道央	道東	道南	道外	計
30歳代		3	1			4
40歳代	1	8	2			11
50歳代		9		1		10
60歳代		16			1	17
70歳代	1	19	1			21
80歳代	2	13		1		16
計	4	68	4	2	1	79

2. 水産資源についての消費に関する質問

(1) 日々の食事で、主要なたんぱく源となるもの(複数回答) (単位:人(%))



(2)主菜として多くとるのは肉類か魚介類か

(単位:人)

	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
肉類	4	8	5	5	6	2	30
魚介類		1		2	7	9	19
肉も魚も		2	5	10	8	5	30
計	4	11	10	17	21	16	79

(3)主菜に肉類を多く食べる理由(自由回答)

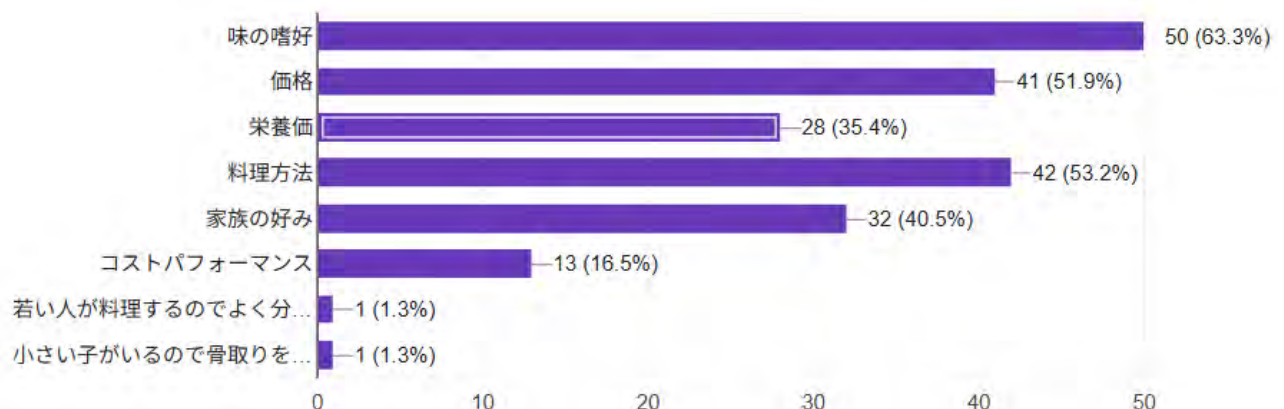
調理に言及する回答	12	調理がラク、調理法が多彩、調理が慣れている 野菜といっしょに調理しやすい、など
価格に言及する回答	5	魚より安価、買いやすい、食べたい魚が高い
味に言及する回答	6	肉が好き、おいしい
家族の好みに言及する回答	8	家族の好み、お弁当のおかずになる など
その他	3	ボリュームがある、魚へのアレルギーがある、魚は苦手 昔魚ばかりだった

(4)主菜に魚介類を多く食べる理由(自由回答)

栄養と健康に言及する回答	7	青魚が体によい、良質のたんぱく質だから、年齢的に動物性 脂質を減らすため、肉食をひかえている、体が欲する
調理法に言及する回答	1	魚の種類が豊富で調理法もいろいろある
好みに言及する回答	9	魚が好き(3)、肉が苦手(5)、刺身が好き(1)
食習慣に言及する回答	1	子どものころから食べている
その他	1	自分は漁師だから

(5)魚介類の消費の決めて(複数回答)

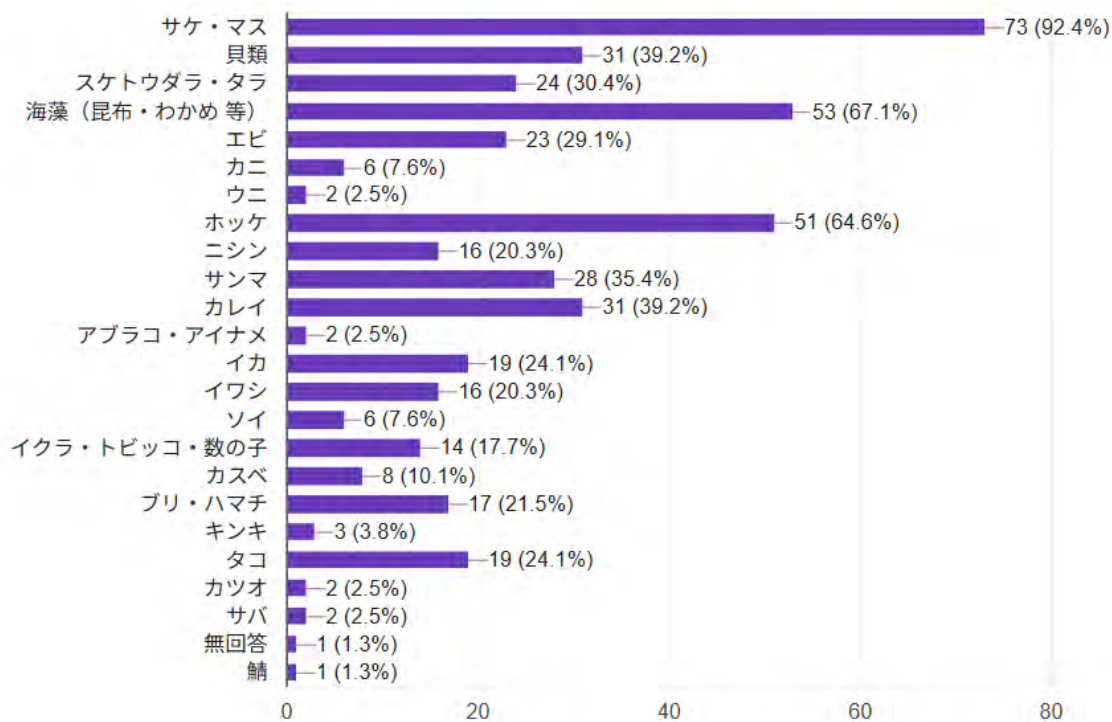
(単位:人(%))



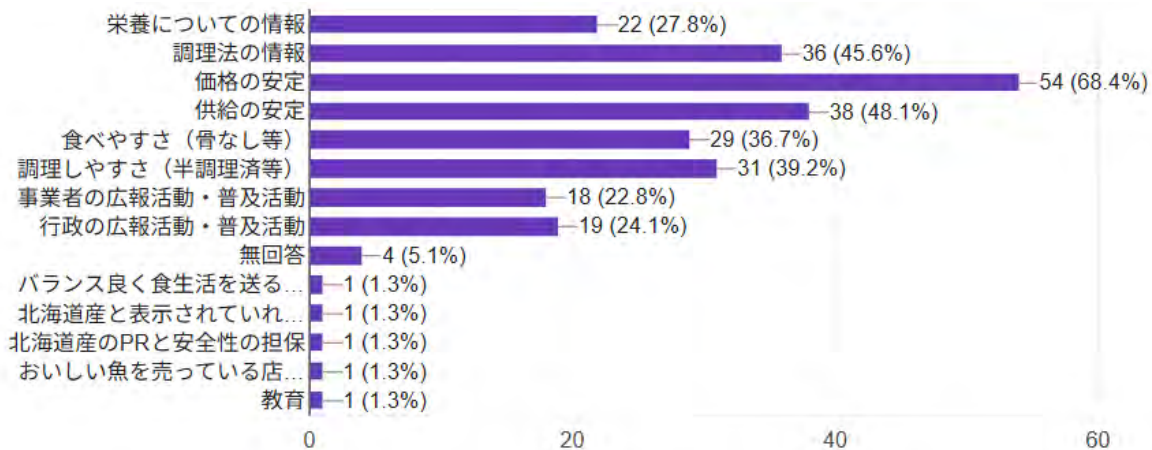
(6)1週間に魚介類を消費する回数 (単位:人)

毎日	5
週5、6日	12
週3、4日	33
週1、2日	25
月に数回	3
3、4か月に1回	1

(7)北海道の海産物の中でよく食べるもの(複数回答) (単位:人(%))



(8)北海道の海産物がより売れるためにはどうしたらよいか(複数回答) (単位:人(%))



(9)北海道でとれる海産物に変化があることについての意見(自由回答)

温暖化の影響を心配する回答	29	温暖化が進んでいる以上やむを得ない、深刻に考えないと、温暖化を逆手にとつての漁獲をねらうのは
魚種の変化を心配する回答	14	取れなくなったのは、サケ、サンマ、イカ、ウニ、シシヤモ これらは北海道の名産品だった 取れるようになったのは、マグロ、ブリ、イワシ、サヨリ 魚種が変わると料理方法の広報も変えないといけない
漁獲量の変化を心配する回答	10	すべての漁獲量が減っている 中国や北朝鮮による乱獲の影響を心配している
漁業方法に言及する回答	3	養殖の検討も必要では？ 密漁・乱獲への制限も必要では？ 魚種が変わると取り方も変わるため、設備投資が必要
価格に言及する回答	4	気軽に食べていた魚が高騰して、食べる回数が減った
漁業者を心配する回答	4	漁業者もたいへんだと思う、国の援助も必要だと思う
消費者としての意見	3	安定供給を望む、おいしいものが食べられなくて残念
「適応」を言及する回答	6	漁獲量の変化は年や気候により変化するので、(消費者は)変化に適応する必要がある
その他	3	北海道の景気が心配、行政と生産者が協力しないと 消費者教育も必要、サケやカニの輸入品が増えていることも不安

(10)北海道の海産物について感じること(自由回答)

新鮮でおいしい	26	・道産子のプライドをかけて守りたい、新鮮でおいしい魚介類 ・調理方法など販売者の工夫でもっと購入してもらえるのでは
不漁が心配	6	・大好きなイカやサンマが食卓から消えて本当に悲しい。危機感を感じる
価格の高騰	12	・よい魚は大都市へ、地元住民は高すぎて食べられない ・地産地消ができない現状
問題山積	21	・行政ができることがまだあると思う ・養殖も工夫の余地があるのでは ・中小加工業者も支援してほしい ・北海道の魚のブランド化も遅れている ・流通を迅速に。行政の支援も必要 ・水産資源の保護 ・風力発電、太陽光発電などが影響しないか懸念している ・未利用魚の活用もできると思う ・輸出にも力を入れる
消費者へのPR	6	・消費者へのアピールを積極的に ・販売者も工夫ができるのでは ・温暖化による生物相の変化に消費者も適応する必要がある ・海洋国の国民として、魚に対する食育を。現状を知らせたり、体験学習を取り入れたたりも、効果があるのでは。学校給食にもっと取り入れよう

【水産業関係者アンケート】 JAUW 札幌 2025 年

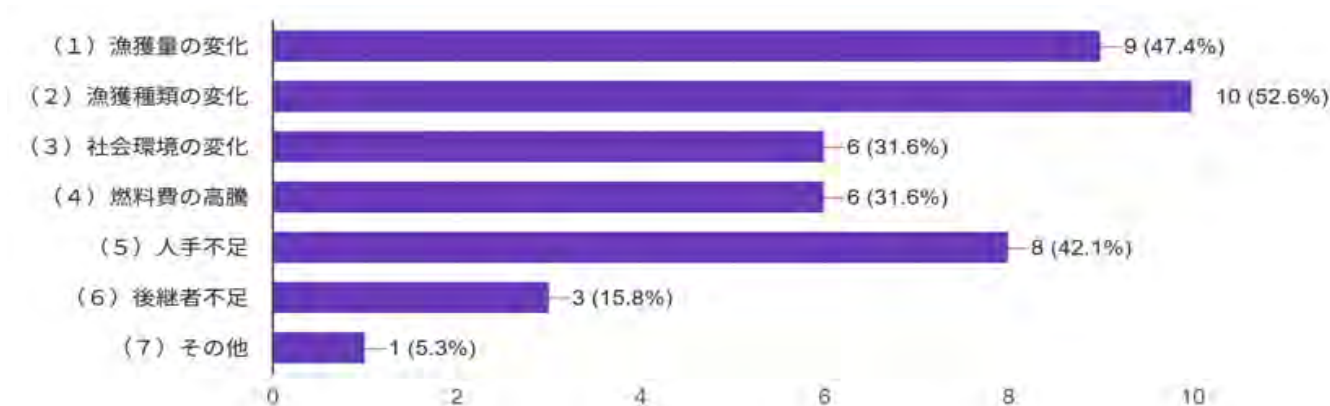
調査の実施時期	2025年7月5日～8月6日
調査対象	北海道内水産業関係者 19人
調査方法	Google Forms またはアンケート用紙による回答

1. 回答者の属性 (単位:人)

	道北	道央	道東	道南	計
漁業・養殖業	2		3		5
食品製造業		4	1	1	6
卸売業		4			4
小売業		2			2
サービス業		1			1
漁業手伝い	1				1
消費者		2			2

※業種をまたがる人がいるため、合計19名にならない

2. 現在抱えている課題(複数回答) (単位: 人)



3. 個別のアンケート結果

※個別内容不記載の回答は掲載していません

食品製造業 A さん(道南在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲量の変化	昆布、イカが全く獲れない	買い付けの制限	昆布を商売としていたが根本を変える必要がある
漁獲種類の変化	代わりにブリが大漁		
行政への期待	資源保護に力を入れてほしい		
消費者への期待	北海道産の海産物を消費してほしい		

卸売業 B さん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
燃料費高騰	運賃の値上がり	同業他社や組合等を利用して混載便を利用する機会が増えた	……?
行政への期待			
消費者への期待			

漁業・養殖業 Cさん(道北在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
社会環境の変化	値段の高騰		
燃料費高騰	高い	節約	政府がかからないから結局変わらない
人手不足	単純に魅力がない	規模縮小	賃金や働き方
後継者不足	魅力もないし未来がないから継がせたくない	規模縮小廃業	
行政への期待	期待するだけ意味がないし期待しない		
消費者への期待			

サービス業 Dさん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
燃料費高騰	ガソリンを安く	軽油車に変えた	エネルギー発電
人手不足	働き手がない	対策をとれていない	AIにたよる
行政への期待	自然災害への対応		
消費者への期待	環境にやさしく		

漁業・食品製造業 Eさん(道東在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲量の変化	海水温の上昇や雑海草の繁茂などで昆布の漁獲量が減っている		個人の力ではどうしようもない。雑海草の駆除や鉄スラグの投入など、漁協主体で国と対策を練ってもらいたい
漁獲種類の変化			
社会環境の変化	すべての物の価格が上がり昆布の価格も上がりましたが、それによる企業や消費者の昆布離れが懸念されます	とれません	わかりません
燃料費高騰	経費があがる	とれません	わかりません
人手不足	人手の確保	とれません	年々悪化すると思う
後継者不足	儲かるわけでもなく肉体的負担も大きく自然環境などの先行きも不安なため、継ぎたい子ども、継がせたい親が減っている	とれません	悪化すると思います
行政への期待	自然環境の変化に対する対策、補助金や助成金の拡充		
消費者への期待	昆布離れをしない		

食品製造業 Fさん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
人手不足	産業人口の減少	外国人の雇用	外国人が就業しても慣れた頃帰国するのでなかなか熟練しない。国や道、市などがもっと外国人雇用に対して礎を作ってほしい。民間の斡旋会社と中小企業の対応だけでは限界がある
行政への期待	外国人雇用への積極的介入		
消費者への期待	適正な価格での購入		

卸売業 G さん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲種類の変化	従来取れていたものが取れなく、寒水じゃないものが現れている	特になし	地球温暖化の解決は難しい
行政への期待	関税を安く		
消費者への期待	食べるものにはお金をかけてほしい		

食品製造業者 H さん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
人手不足	産業人口が減っている	高齢者の再雇用	外国人を使わないで何とか頑張りたい
行政への期待	若者が住みたくなる街づくりをしてほしい		
消費者への期待	食の安全を考え、価格ではなく商品そのものの安全性をしっかりと考えてほしい		

漁業手伝い I さん(道北在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲量の変化		個人的にはない	
漁獲種類の変化			
社会環境の変化			良い考えは浮かばない
その他	温暖化の変化以外で伝えたいことがあります。私が子どもだった頃(今80歳代)、ウニは身を出した後、殻は海に戻っていた。けれど、頭のいい人たちが、海を汚すからといってわざわざお金をかけて殻を廃棄するようになった。殻を海に戻すことが海の栄養になると思う。昔はその殻に子っこのウニがくっついていただけ、今はそんなことはなくなりました。全体的に漁獲量が激減しているのは報道のとおり。温暖化などの環境の変化ももちろんだけど、頭のいい人たち??のご指導はどうなのでしょう?		
行政への期待			
消費者への期待			

小売業 J さん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲種類の変化	元々北海道で取れていた海産物が取れなくなってきている	本州や海外の仕入れ	自然のことだから何ともいえない
行政への期待	関税の引き下げ		
消費者への期待	食にもっとお金をかけてほしい		

食品製造業 K さん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲量の変化	温暖化	他の魚種を使つての製造	お先真っ暗
行政への期待	もうあきらめている		
消費者への期待	賢くなってほしい		

食品製造業 L さん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲種類の変化	温暖化	産地の違う原料(海外含め)対応している	難しい
行政への期待	円高		
消費者への期待	価格で決めないで手間や安全性を求めてほしい		

漁業・養殖業 Mさん(道北在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲量の変化	ウニが全く取れなくなった ウニが海の中で食べるものがない	何もない	今までウニの殻など海の中に捨てたのが 今ではダメで、それで食べるものがない っている
燃料費高騰	燃料がないと何もできない	対策をとる何もない	個人として何もできない
その他	海水温があがって魚種がわから なくなっている		
行政への期待	期待なし		
消費者への期待	物がとれないのに期待することはない		

漁業・養殖業 Nさん(道東在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
人手不足			外国人労働者の雇用
行政への期待			
消費者への期待			

卸売業 Oさん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲種類の変化	旬のものが温暖化などの影響により激減	他のもので流用しているが限界を感じる	前途多難
行政への期待			
消費者への期待			

漁業・養殖業 Pさん(道東在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
漁獲量の変化	地球温暖化による水温上昇	水温、気温の低い時間帯 (日の出前)に作業する	今後、温暖化が進むと水 揚げ量が減る
漁獲種類の変化	海水温の上昇により、今まで取れなかった 魚種が増えた	特になし	特になし
社会環境の変化	海産物は輸出に頼る部分があるので、円 安、中国との関係がある	特になし	特になし
燃料費高騰	特になし	なるべく節電、経費削減	
人手不足	どんどん必要な設備や施設が大型になって いるので、それに携わる人員が増える	知人の紹介などで人手を 増やしている	今後、外国人研修生が 増えそう
後継者不足	高齢者、少子化	特になし	
行政への期待			
消費者への期待			

卸売業 Qさん(道央在住)

抱えている課題	課題の内容	現在とっている対策	今後の見通し
社会環境の変化			今後の見通しは暗い
行政への期待	関税を何とかしてほしい		
消費者への期待	食の安全を考えるなら金を出せ		